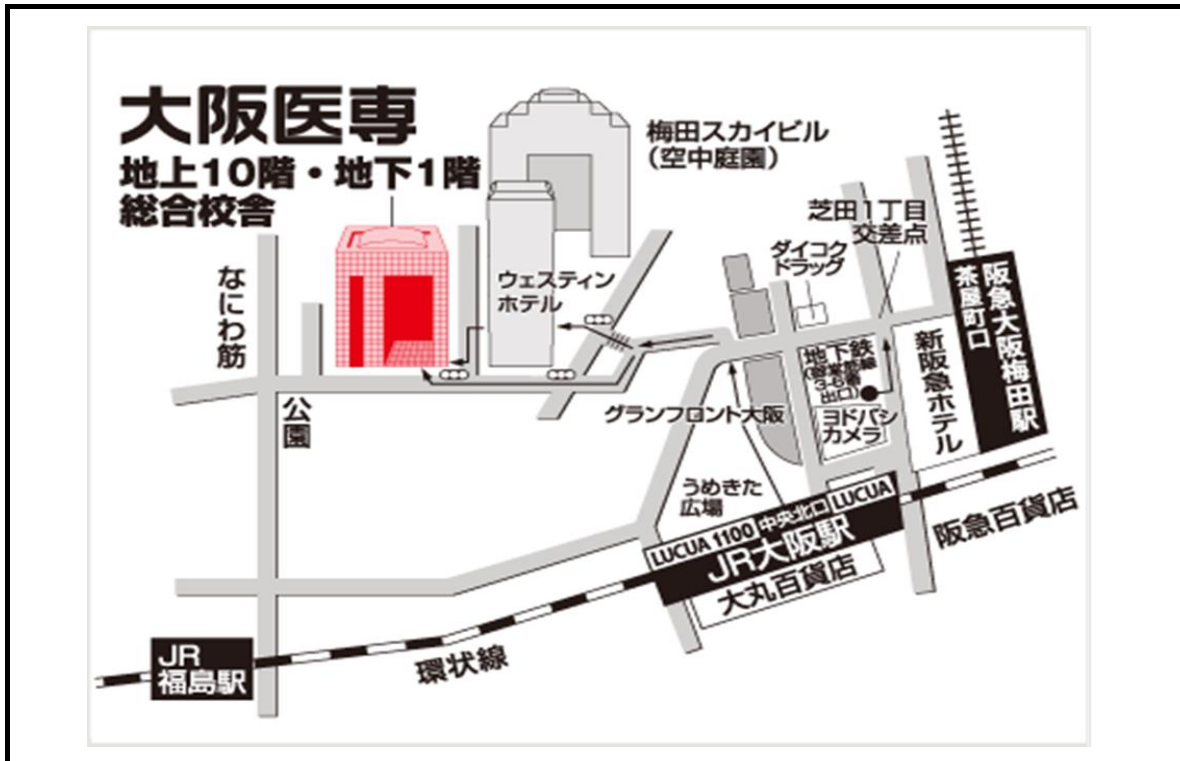


訓練コース内容

識別コード	22L0421	訓練コース番号	5-04-27-207-05-0108
訓練科名	長期高度人材育成コース(言語聴覚士養成コース)		
訓練期間	令和4年4月1日(金)～令和6年3月29日(金)		
訓練実施校名	大阪医専		
所在地	大阪市北区大淀中一丁目10番3号		
電話番号	06-6452-0110	受付時間	10:00～20:00
事前説明会日時	2月4日(金)13:30～15:00 2月7日(月)10:30～12:00 2月9日(水)13:30～15:00 2月15日(火)10:30～12:00 2月17日(木)13:30～15:00		
選考試験日	3月7日(月)		
試験科目	筆記試験(適性診断)、面接		
入校に必要な最終学歴	4年制大学卒業		
最寄り駅	JR 大阪駅、阪急 大阪梅田駅、阪神 大阪梅田駅、大阪メロ 梅田駅		
備考	オンライン訓練の際にはZoomの稼働環境が必要		

【最寄り駅からの地図】



委託訓練カリキュラム

訓練科名	言語聴覚士養成コース(2年)		就職先の 職務・仕事	病院、介護・福祉施設において言語障がいのある方のサポートを行う。	
訓練期間	令和4年4月1日～ 令和6年3月29日(24か月)				
受講生の条件	4年制大学卒業以上				
訓練目標	厚生労働大臣指定の言語聴覚士養成課程のカリキュラムを中心に、座学での知識と実践に即した言語療法にかかわる技術や知識を習得する。				
仕上がり像	言語聴覚士資格(国家資格)を有する専門的な人材として、医療・福祉・保健の現場において、正職員として就職して活躍できる人材。				
訓練概要	言語聴覚士とは、コミュニケーション障がいを持つ方へリハビリを行う医療従事者である。障がいのメカニズムを知る為に検査や評価を実施し、その後に訓練や指支援を行っていく。忘れてはならないことが、対象者へ「寄り添う」という心のサポートである。医師や看護師など多職種と連携をして働く中で、コミュニケーション能力も求められることとなる。これら一連を座学や演習を通して身に着けた言語聴覚士を養成する訓練である。				
領域	形態	科目	科目の内容	時間	
基礎医学	講義	医学総論、解剖学、生理学、病理学	医学の発展・本質・倫理、ヒトの構造機能、疾患の成り立ち	112	
臨床医学	講義	内科学、小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、耳鼻咽喉科学、臨床神経学、形成外科学	一般内科の臨床疾患、小児疾患、精神障害、各種疾患のリハビリテーション、耳鼻咽喉科疾患、神経疾患発生メカニズム、形態機能喪失再建術	184	
臨床歯科学	講義	臨床歯科医学・口腔外科学	口腔領域の解剖及び生理・病態	28	
音声・言語・聴覚医学	講義	呼吸発声発語系構造・機能・病態、聴覚系構造・機能・病態、神経系構造・機能・病態	呼吸器機能・疾患の診断及び治療法、聴覚系機能・構造・病態の概要、神経組織の基本構造と病態の理解	84	
心理学	講義	臨床心理学、生涯発達心理学、学習・認知心理学、心理測定法	心理臨床的援助方法理解、医療臨床的視点の人間発達、行動や思考理解、データの適切な理解と活用	120	
言語学	講義	言語学	ことばの背景に潜む規則や制約	30	
音声学	講義	音声学	音声学と音声器官・音韻論の関係	30	
音響学	講義	音響学、聴覚心理学	音の物理解析、音声生成原理、音の心理物理学	56	
言語発達学	講義	言語発達学	言葉の獲得メカニズムと発達の道筋	28	
社会福祉・教育	講義	社会保障制度、関係法規、リハビリテーション概論、理学療法概論、作業療法概論、社会福祉・教育概論	社会保障の機能役割、言語聴覚士法他職種法規理解、リハビリテーション理念と対象、理学作業療法の概要、障害当事者と関わる技術の実践	168	
言語聴覚障害学総論	講義・演習	言語聴覚障害概論Ⅰ～Ⅱ、言語聴覚障害総論Ⅰ～Ⅲ、言語聴覚障害診断学	言語聴覚療法の流れ、検査の成り立ち理解と適切な実施、言語聴覚障害の評価・診断	168	
失語・高次脳機能障害学	講義	失語症Ⅰ～Ⅳ、高次脳機能障害Ⅰ～Ⅱ	失語症・高次脳機能障害理解と評価・診断・訓練法	168	
言語発達障害学	講義	言語発達障害Ⅰ～Ⅵ	様々な言語発達の概要・評価・支援	168	
発声発語・嚥下障害学	講義	音声障害、構音障害Ⅰ～Ⅳ、嚥下障害Ⅰ～Ⅱ、構音・嚥下障害学、吃音	発声機能障害とリハビリテーション、ディザースリアと器質・機能性構音障害、摂食嚥下障害理解とリハビリテーション、吃音の問題の理解と対応	252	
聴覚障害学	講義	小児聴覚障害Ⅰ～Ⅱ、成人聴覚障害Ⅰ～Ⅲ、補聴器・人工内耳、視覚聴覚二重障害	新生児・乳幼児の聴覚障害と療育、「聞こえ」のしくみ理解と支援、補聴援助、二重障害の理解、拡大・代替コミュニケーション	196	
臨床実習	実習	臨床実習Ⅰ～Ⅱ	全体像を把握し、様々なコミュニケーション障害の症状評価に基づいた訓練計画を立案する	480	
その他の講座	講義	働くことの基本ルール(必須)	働くことの基本ルール	3	
	講義	安全衛生(必須)	安全衛生	3	
	講義	国家試験対策	国家試験対策	60	
就職支援	講義	キャリア形成論	キャリア形成の考え方	10	
	演習	キャリアカウンセリング	面接指導、対人スキル向上	10	
訓練時間総合計				2358 時間	
学科	1764 時間	実技	574 時間	就職支援	20 時間